

ウンベルト・エーコの小説講座 若き小説家の告白

ウンベルト・エーコ 著
和田忠彦・小久保真理江 共訳
筑摩書房

Confessions of a Young Novelist
Umberto Eco

ウンベルト・エーコが2008年にアメリカの大学で行った講義をもとに作られた本の日本語訳です。歩く百科事典のように博学なエーコのユーモアあふれる文章を分かりやすく訳すのに苦劳しましたが、楽しくて良い勉強になる仕事でした。もっとも苦劳したのは、学術書や文学作品のなかのリスト(目録)について語る最終章で、翻訳やゲラ直しの作業中、何度も「リストの眩暈」に襲われました。

小久保真理江

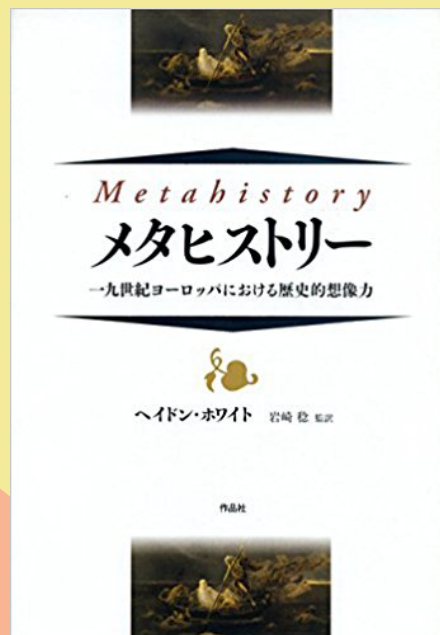
メタヒストリー 一九世紀ヨーロッパにおける歴史的想像力

ヘイドン・ホワイト 著
岩崎稔 監訳
作品社

Metahistory: The Historical Imagination in Nineteenth-Century Europe
Hayden White

刊行までに九年もかかってしまいました。それだけじっくり内容について考え、細かいところに手を入れ続けた翻訳です。でも、その甲斐あって、原著を英語で読むよりもはるかに分かりやすくなっている、と自負しています。言語表現に係るひとにはぜひ読んでもらいたい一冊です。解説にも力を籠めました。

岩崎稔



ヘーゲルとハイチ 普遍史の可能性に向けて

スーザン・バック＝モース 著
岩崎稔・高橋明史 訳
叢書ユニベルシタス 1064、法政大学出版局

Hegel, Haiti, and Universal History
Susan Buck-Morss

これはすべてのヘーゲル研究者にとって頂門の一針となる批判です。研究者だけじゃない。《ヘーゲルと中米がどうして関わるの?》と思ったひとまた、コロニアリズムと奴隷制に対する黙殺のフィルターに引っかかっています。ヘーゲル研究史に内在しつつ本書の意義を説明した本格的な解説をつけました。

岩崎稔

